

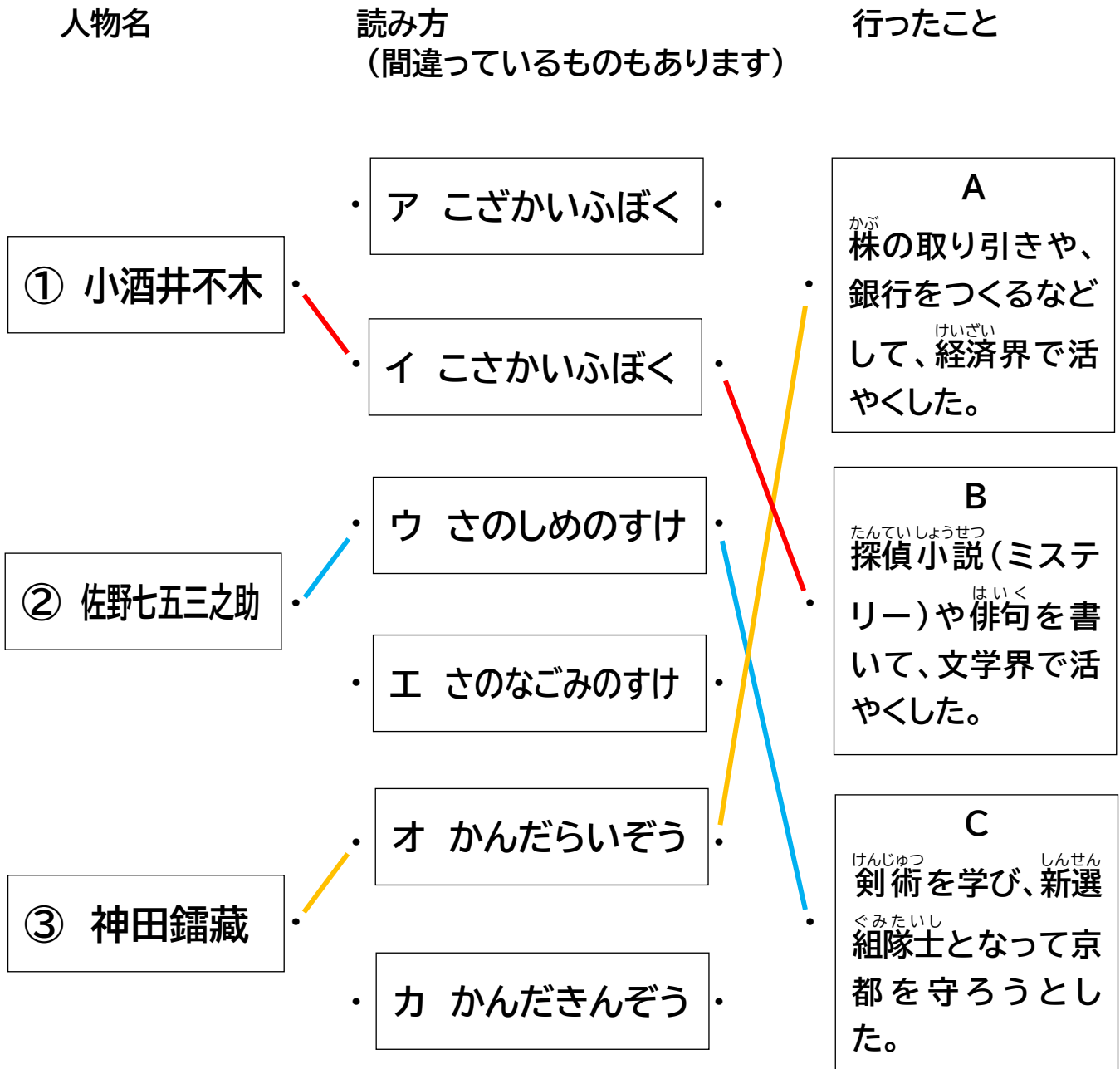
蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

第24回 蟹江ゆかりの人物クイズ(答えと解説)



今回のおうちミュージアムでは、蟹江で生まれ育った人、蟹江で過^すごしたことのある人々の中から、さまざまな活^{かつやく}躍をした人達を紹介します。

どんな人が、どんな活躍をしたのでしょうか。線でつないでみましょう。



人物解説

こさかいふぼく
小酒井不木(1890年(明治23年)-1929年(昭和4年))

こさかいふぼく
小酒井不木は、1890年(明治23年)生まれ、新蟹江村(今の蟹江町大字蟹江新田)出身の人物です。

大正の終わりから昭和の初め、文学の世界では、まだ探偵小説(ミステリー)が新しい分野だったころ、その分野を広めるために活躍した人物です。不木は、東京帝国大学(今の東京大学)で医学を学んだ医学博士でもあり、科学的な知識を活かして多くの作品を残しました。さらに「明智小五郎」などの名探偵の生みの親である、江戸川乱歩を始めとした多くの作家たちと交流し、探偵小説の世界をもり立てました。また、俳句にも情熱を注ぎ、今も活動が続く「ねんげ句会」を始めた人でもあります。このように、小酒井不木は文学の世界に大きな影響をあたえた人物なのです。



小酒井不木

※「小酒井不木」について詳しく知りたい人は、おうちミュージアムの第3回「蟹江町出身の探偵小説家・小酒井不木について知ろう！」をみてください。

さのしめのすけ
佐野七五三之助(1834年(天保5年)-1867年(慶応3年))

さのしめのすけ
佐野七五三之助は、1834年(天保5年)生まれ、須成村(今の蟹江町大字須成)出身の人物です。

七五三之助は、須成の神社の神職の息子でした。江戸時代の終わり、ペリー来航以来、外国人がどんどん日本に来るようになった時代、尊王攘夷(外国の勢力から天皇を守ろうという考え)をこころざし、江戸へ向かい北辰一刀流の剣術を学び、横浜で警備をするようになりました。そして30才の時に新選組の隊士となって京都へ行き、京都の治安を守るために活動をしました。



佐野七五三之助の墓

しかし、その3年後、幕府と天皇側の勢力が対立するなか、新選組は全面的に幕府に味方するという方針をとったため、これに大反対して3人の仲間とともに自ら腹を切って人生を終えました。無念の最期でしたが、「天皇を守りたい」という一つの信念をつらぬいた人生でした。

なお、須成の富吉建速神社・八剱社から蟹江川をはさんだ西側の住宅地の中に、七五三之助の墓があります。

神田鐳藏(1872年(明治5年)-1934年(昭和9年))



神田鐳藏

神田鐳藏は、1872年(明治5年)生まれ、須成村(今の蟹江町大字須成)出身の人物です。

鐳藏は、須成の酒造会社の息子として育ちましたが、若いころから株の取り引きに興味を持ち、親の反対を押し切って、その世界に入りました。27才の時に東京へ行き、次の年には金融取り引きの店「紅葉屋」を開店しました。鐳藏は、まわりよりも早く海外との取り引きに注目し、英語の日報を発行するなどして成功し、46才の時には「神田銀行」を設立しました。

鐳藏は、多くの政治家や経済界の大物と交流がありましたが、特に、当時経済界をひっぱっていた渋沢栄一とは深い交流を持ちました。また、静岡県の厨子開成高校をたてなおして理事をつとめた、浮世絵を集めて海外流出を防いだ、県道の整備のためのお金を寄付した、など文化面や地元の発展のためにも活躍しました。

昭和になって金融恐慌がおきて神田銀行は破産してしまい、成功し続けることはできませんでしたが、その活躍ぶりは、今に語りつがれています。

なお、須成の善敬寺の墓地には、鐳藏が建てた「神田氏家系碑」があります。その文字は、渋沢栄一によるものです。



神田氏家系碑